

紅葉狩

み  
ら

紅葉狩

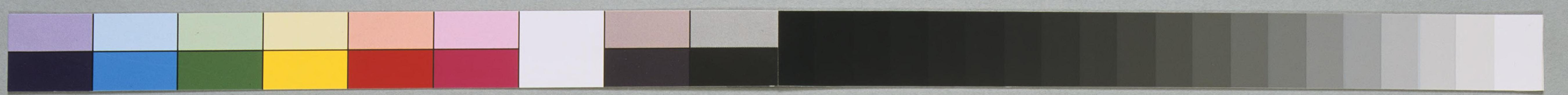
観世流謡曲 元和卯月本

56-001

56 紅葉狩

国立国会図書館





第廿

時雨をいづく紅葉狩に深寺

やまを尋ねて是ハ此阿のり

信女をいづく実やあかしく

浮世にまよふも今やわづら

雲のいさむら志あはる宿の

山にまよふ人もあなまの

来て庭乃志ら菊うらふ色も



紅葉狩

観世流謡曲 元和卯月本

56-002

56 紅葉狩

国立国会図書館





夕時あわてや鹿乃栲啼  
聲をきく乃栲場のまゝ  
志乃子氣をこり那  
鳴ぬそぞ  
色よわしよある鹿乃松吹を  
かき乃音よ豹のあゝあゝ  
あり  
まはらりあたまをこり  
乃ゆきく入野乃すし  
露を

行きのなまき山陰のまき  
らまよむらる鹿乃  
見乃行きの心まよ  
誰りあつた  
か弟よ苗つて人影のみ  
必者く必を事な  
必を事な

まじらちまじら 屏風をたて酒宴  
のありしとてなして作福の家  
尋ねて入らば ぬきとらば  
侍方とてさうわらん ナキ 判らぬ  
世つとてさうそは様の人  
さうさうさうさうさうさう  
の道乃ほとちの紅葉のつたは酒

まじらちまじら セ  
まじらちまじら 上三句  
馬のわたりて昔をぬき道を開て  
山陰の岩のりるちをるは  
つらむ 三上 ちたな 三下 あり 三上 せ 三下  
かまあ 三上 ぬ身 三下 ほとち 三上 のち 三下 あり  
来 三上 せ 三下 ぬ 三上 ち 三下 あり 三上 ぬ 三下

あつたはる紅葉まのさみしき秋なり  
はるまじ 秋の宿をきぬらむ  
あつたはる紅葉まのさみしき秋なり  
計りあり 志のあもちせむち宿を  
きらまゆるあふ道にきこる便に  
きこるあふりか 思ひよるは  
るまじ 秋の宿をきぬらむ

らあむらうて 偶行と 秋情  
あつたはる紅葉まのさみしき秋なり  
一樹の蔭に 立よる 一は乃  
清き水に 流るる 見まそ  
たまはるまじ 秋の宿をきぬらむ  
まのあふりか 思ひよるは  
らあむらうて 偶行と 秋情

山路の菊の酒行のくまの  
あは 虎溪をゆく入心所  
をいそしかりまづの情のらるあ  
深き契りなりたしとる 村間  
酒とつるまて紅葉をたくと  
かや 文のあけりる若ほり  
しう名を( )しと袖も紅葉衣

のくれば井あつるかほをせり  
世の人とも思ひれす胸うちらる  
計あり川を らあまたよらん  
みづさうし行り葉のつるさ  
たよらもしと思ひ かつもさ  
むくまかりさくぬれれ佛も  
海あり道は横くがま

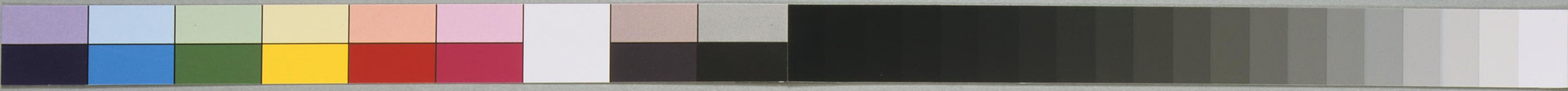
も。子。欣。酒。を。あ。り。ふ。ハ。邪。嬖。家。語。  
も。諸。丸。子。乱。心。乃。花。の。片。ら。が。る。  
ま。ま。ま。世。も。た。ら。い。あ。の。  
山。ら。ら。ら。ま。の。か。ら。め。し。り。あ。後。  
<sup>上</sup>ま。思。入。見。え。そ。も。あ。世。の。あ。ち。  
あ。さ。か。た。な。深。き。情。乃。を。み。え。が。  
系。刺。し。色。角。の。む。れ。真。女。の。あ。ら。り。

か。こ。も。も。か。あ。そ。う。頼。せ。行。き。を。  
契。る。も。さ。ら。れ。う。ち。も。よ。ん。の。心。し。  
ま。も。の。ま。り。乃。ら。あ。亂。ら。し。あ。  
が。そ。時。刻。も。ら。は。か。ら。い。ま。さ。ら。  
片。乃。あ。さ。も。あ。り。ち。ら。か。ま。ら。ま。の。あ。  
城。の。神。の。契。り。の。ま。ら。あ。て。自。の。  
ら。ら。ら。ら。神。も。あ。い。ま。さ。り。く。ら。ら。



まよわぬあしづき酒の酔心  
まよわぬあしづき酒の酔心  
まよわぬあしづき酒の酔心  
まよわぬあしづき酒の酔心  
まよわぬあしづき酒の酔心  
まよわぬあしづき酒の酔心  
まよわぬあしづき酒の酔心  
まよわぬあしづき酒の酔心  
まよわぬあしづき酒の酔心  
まよわぬあしづき酒の酔心

たゞしめたるはるの塔を  
紅葉青苔の地 塔の紅葉青苔  
の地又も涼風らわりのそよよめ  
うららるるあしづき酒の酔心  
まよわぬあしづき酒の酔心  
まよわぬあしづき酒の酔心  
まよわぬあしづき酒の酔心  
まよわぬあしづき酒の酔心  
まよわぬあしづき酒の酔心  
まよわぬあしづき酒の酔心  
まよわぬあしづき酒の酔心



化生乃海を歌りてあふたひいそ  
 ほと火燭をさるゝまゝに塵を  
 了ほのほをさるゝ威陽宮の煙  
 のあうまぜりり屏風りる色はれ  
 あまうそ具なき一丈の鬼形乃  
 角のありて眼の日日面をさるゝ  
 ちのふりてあふたひいそ

ちのふりてあふたひいそ  
 ちのふりてあふたひいそ  
 ちのふりてあふたひいそ  
 ちのふりてあふたひいそ  
 ちのふりてあふたひいそ  
 ちのふりてあふたひいそ  
 ちのふりてあふたひいそ  
 ちのふりてあふたひいそ  
 ちのふりてあふたひいそ  
 ちのふりてあふたひいそ

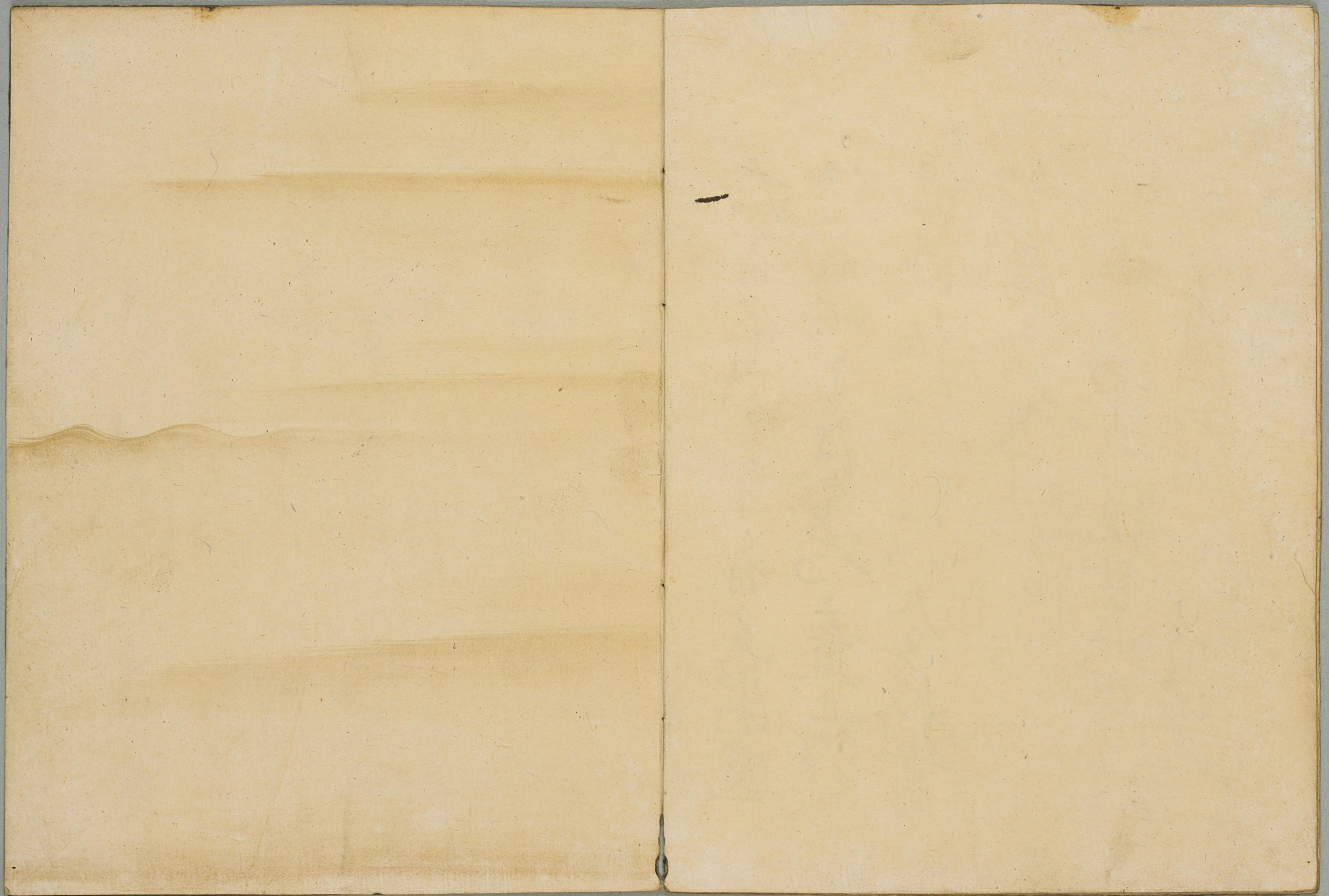


つまじき器にておほまのりるを  
なまじき器にておほまのりるを  
なまじき器にておほまのりるを  
なまじき器にておほまのりるを  
なまじき器にておほまのりるを

一

右百番之内有糸糸直  
傳石岡が左妻の音早句付  
依波板紀程の今清書  
加奥の早

元和六年 観世左近大夫  
卯月日 音早



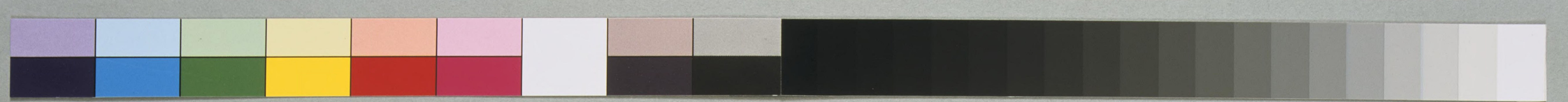
観世流謡曲 元和卯月本

56-012

56 紅葉狩

国立国会図書館





観世流謡曲 元和卯月本

56-013

56 紅葉狩

国立国会図書館

